

## E-2 : 研究力分析とその活用

開催日時・会場 9月17日(木曜日) 13:30 - 15:00 会場E

### 研究力を見える化するシステム

研究IR(部門)の本質は、研究機関の自律的な意思決定に資する分析を組織の基礎的な特徴や常に変化する要因を踏まえながら適切にレポートする機能を維持することにある。すなわち、単なる関連データの集計、定型処理だけでなく、より重要なのは分析機能＝アナリティクスで組織の活動の見える化をすることである。対象となるデータは「研究者(プロジェクト)、研究資金(資産)、業績」等に分類され、いったんIR室に集約される。本セッションではこの集まった情報を種々の統計手法やソフトウェアを駆使して有意義な知見を抽出するためのシステムと利用事例を紹介する。

分析システムの側からみた研究IRの重要な観点は、研究機関には対象とする学術分野、組織の規模、掲げるミッションなどそれぞれ異なった多様な組織が存在していることである。国内には17の大学共同利用機関があり、共同利用・共同研究拠点、国立大学附置研究所・センターは100の規模である。それぞれが独自の設立趣旨とミッションを有している。この多様な研究機関の「研究者、研究資金(資産)、業績」データをネットワーク構造として捉え、見える化を支援するのがこのシステムの主な特徴である。たとえば、「機関内を横断するプロジェクト群のなかでPJ同士をつなぐハブとなるような研究者はだれか？」などである。さらに「その業績のなかで異分野融合の度合いが高い論文は？」などIRerが探索的に分析することを可能にする。また、機関が運営する公募(ファンディング)情報も一種のネットワークデータとして扱うことができる。

本セッションでは、まず開発中のシステムの概要紹介のあと現在試験的に導入している3機関の実際の利用事例を各機関から発表してもらう。

### セッション担当者

本多 啓介：大学共同利用機関法人  
情報・システム研究機構  
統計数理研究所 運営企画本部 URA



情報・システム研究機構 主任URA／特任准教授(兼任)人間文化研究機構国文学研究資料館特任研究員(特任准教授)研究部

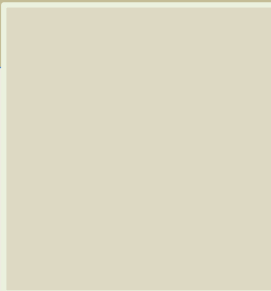
博士(学術)(2009年3月 総合研究大学院大学)

## 登壇者



谷口 真人: 大学共同利用機関法人 人間文化研究機構  
総合地球環境学研究所  
副所長(研究担当)・IR室長

理学博士。国際水文地質学会副会長、日本学術会議連携会員。日本地球惑星科学連合(JpGU)大気水圏セクションプレジデント。Future Earth Nexus KAN 運営委員会委員。JST/RISTEX「フューチャー・アース:日本が取り組むべき国際的優先テーマの抽出及び研究開発のデザインに関する調査研究」(2015-2017)」研究代表者、主な編著に“The Dilemma of Boundaries”、『地下水流動: モンスーンアジアの資源と循環』など。2016年よりIR室長。



橋口 晶子: 筑波大学 医学医療系 助教

筑波大学 医学医療系 助教



濱田 ひろか: 大学共同利用機関法人  
情報・システム研究機構 統計数理研究所  
データ科学研究系 特任研究員

情報・システム研究機構 統計数理研究所 データ科学研究系 構造探索グループ 特任研究員

修士(医科学)(2011年3月 横浜市立大学大学院医学研究科医科学専攻)